

評価者	こどもみらい部長	平井 あかね
-----	----------	--------

評価対象分野・施策の方針・目標とすべきまちの姿

総合計画上の位置付け	分野	子育て	施策の方針	すべての子育て家庭への支援
目標とすべきまちの姿	次代を担う子どもたちが健やかにのびのびと成長できるよう、子育て家庭への支援の充実が図られており、また、支援ネットワークを通じて、支援サービスに係る情報提供が積極的に行われています。地域や関連機関との連携など、子育てに関する相談体制の充実が図られ、育児放棄や児童虐待は少なくなっています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度(回答者全体に占める割合)

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成30年度(2018年度)	18.3%	平成29年度(2017年度)	19.9%	平成28年度(2016年度)	21.1%
	平成27年度(2015年度)	20.5%				

(2) 妥当性

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	5.5%	0.8%	0.8%
ちょうどよい	3.1%	41.2%	2.5%
効果不十分	3.5%	3.3%	16.5%

平成30年度(2018年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	3.5%	2.1%	0.4%
ちょうどよい	3.9%	39.9%	2.5%
効果不十分	2.5%	3.5%	17.8%

平成29年度(2017年度)

施策の方針全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.8%	2.8%	0.4%
ちょうどよい	4.8%	36.8%	0.5%
効果不十分	2.3%	3.6%	21.5%

平成28年度(2016年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.9%	1.7%	0.3%
ちょうどよい	3.6%	37.1%	0.9%
効果不十分	3.0%	3.6%	22.2%

平成27年度(2015年度)

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答
平成30年度(2018年度)	32.2%	39.8%	5.3%	22.6%
平成29年度(2017年度)	30.2%	40.9%	4.7%	24.1%
平成28年度(2016年度)	32.9%	38.2%	3.6%	25.4%
平成27年度(2015年度)	33.8%	37.6%	2.7%	25.9%

2 内部評価

(1) 平成30年度(2018年度)の目標

<p>【すべての子ども】</p> <p>「一日冒険遊び場」の常設化について検討する。子育て家庭に情報提供をするために保育コンシェルジュ、子育てメディアスポットの更なる活用を図るとともに、子育て家庭を対象とした講座・イベントなどの開催の支援を行う。(こども-02)</p> <p>【未就学児】</p> <p>子育て中の親子に対して身近に集える場所を提供し、親子同士が交流できるようにするため、継続してつどいの広場を運営する。(こども-03)</p> <p>未整備となっている腰越地域の子育て支援センター設置に向けた検討を行う。多様化する子育てニーズに対応するため、子育て支援情報の把握及び積極的な情報発信を行い、地域全体で子育てを支援していくため、各事業を継続して実施していく。(こども-21)</p> <p>【幼稚園・保育所等に通う子ども】</p> <p>公立保育所の修繕を計画的に実施するとともに、突発的な修繕にも適時、適切に対応する。(こども-04)</p> <p>幼稚園等就園奨励費補助金について、引き続き第2子の無償化を実施する。私立幼稚園教材教具購入費等及び健康診断費補助金及び鎌倉私立幼稚園協会補助金事務を事務を適切に行う。(こども-05)</p> <p>幼稚園における、預かり保育事業に対して補助事業を開始する。(こども-07)</p> <p>鎌倉地域及び大船地域で病児保育事業と病後児保育事業を実施し、保護者の負担軽減に努める。(こども-14)</p> <p>待機児童対策として、保育士の派遣を活用するとともに、保育スタッフの弾力的配置等により定員を超えた弾力的な運用による受け入れを進める。(こども-16)</p> <p>【特別な支援を要する子ども】</p> <p>育児放棄や児童虐待に対する予防、早期発見を目指すため、各種相談事業や家庭訪問など、相談体制を充実させる。(こども-19、こども-22)</p> <p>障害児支援の拠点施設として、専門性向上を目的とした職員研修プログラムや他事業所からの研修生の受け入れ等を行い、民間事業所との連携や情報共有を行う。また、県内同様施設の多くが運営形態を指定管理に移行している状況を踏まえ、今後に向けた鎌倉市の障害児支援の全体的な方向性の中で、サービスの充実を前提としたあおぞら園の委託化について、具体的なスケジュールを策定して進めていくこととしている。(こども-38)</p> <p>施設の長寿命化を図るため、ふるさと寄付金を活用して屋上防水工事を実施する。(こども-38)</p> <p>【就学児】</p> <p>子どもの家について、安定した運営を行うため公設公営から指定管理へ転換していくとともに、放課後こども総合プランへの移行や民間事業者の活用を進めていく。(こども-30)</p> <p>放課後こども総合プランについて、2校で実施するとともに、平成32年度に全校実施するための準備を進める。(こども-31)</p> <p>【医療費助成】(健康福祉部から)</p> <p>医療費助成の適正化について継続して取り組みを行う。(こども-27)(こども-29)</p> <p>小児及びひとり親家庭等医療費助成について、市民のニーズや負担のあり方について検討する。(こども-27)(こども-29)</p> <p>未熟児養育事業については、法定事務のため今後も現状の事務を維持する。(こども-28)</p> <p>市民の利便性の向上に向けて、相談・申請窓口の一本化を推進する。(こども-27)(こども-28)(こども-29)</p> <p>県内各市の一部負担金導入に係る状況を把握した上で、実現可能性の可否を検討する。(こども-27)(こども-29)</p>

(2) 目標とすべきまちの姿と平成30年度(2018年度)の目標との関連性

<p>腰越地域の子育て支援センター設置に向けた検討を行うとつどいの広場の運営等により、子育て家庭への支援の充実を図り、さらに保育コンシェルジュや子育てメディアスポットを活用して、子育てに関する情報提供に努めていく。</p> <p>幼稚園における預かり保育への補助事業を開始するなど、幼稚園や保育所での教育・保育内容を充実させる取組を行うことにより、子どもたちが健やかにのびのびと成長できる環境を整えることができる。</p> <p>地域との連携を深めるとともに、相談体制を充実し、家庭訪問等を行い、育児放棄や児童虐待を未然に防止する体制を整えていく。</p> <p>あおぞら園での事業を実施することで、特別な支援を必要とする子どもが健やかにのびのびと成長することができる。また、特別な支援についての情報提供や相談対応を行っており、特別な支援を必要とする子どもを養育する家庭への支援の充実が図られている。</p> <p>子どもの家の指定管理の導入により民間のノウハウを取り入れた運営を行うとともに、放課後子ども総合プランの拡大により、子どもたちの居場所を確保することにより、子どもたちが健やかにのびのびと成長できるよう支援することができる。</p> <p>子どもたちが健やかにのびのびと成長できるよう医療を受けやすい環境を整えるために、市民のニーズや負担のあり方について検討し、子育て家庭への更なる支援の充実を図る。また、相談・申請窓口の一本化を推進することで、子育てに関する相談体制の充実が図られる。</p>

(3) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		法定受託事務	今後の方向性	
整理番号	事業名	平成30年度(2018年度)	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	令和元年度(2019年度)	平成30年度(2018年度)	令和元年度(2019年度)		事業内容	予算規模
こども-01	児童福祉運営事業	3,520	573	22,709	23,861	2.5	2.5	無	b	B
こども-02	子育て支援事業	4,582	4,450	21,469	29,760	2.2	2.2	無	a	A
こども-03	地域子育て支援拠点事業	2,946	2,833	14,460	14,215	1.5	1.5	無	a	C
こども-04	公立保育所管理運営事業	14,197	14,225	23,408	41,054	1.2	1.6	無	b	B
こども-05	就園支援事業	390,791	428,702	404,607	601,857	1.8	1.8	無	a	A
こども-07	私立保育所等助成事業	12,944	7,350	20,620	28,215	1.0	1.0	無	a	A
こども-11	児童福祉運営事業	17,491	20,988	18,272	30,826	0.1	0.1	無	b	B
こども-12	特定教育・保育施設支援事業	2,562,648	2,305,983	2,582,162	2,996,313	2.5	2.5	無	b	A

こども-13	特定地域型保育支援事業	163,184	177,315	178,795	237,935	2.0	2.0	無	b	B
こども-14	特別保育事業	110,087	90,674	121,795	154,528	1.5	1.5	無	b	B
こども-15	私立保育所等助成事業	390,995	365,270	398,801	462,436	1.0	1.0	無	b	B
こども-16	公立保育所管理運営事業	404,753	407,774	1,149,400	1,216,517	95.4	88.9	無	b	B
こども-19	児童福祉運営事業	16,364	19,118	26,543	28,596	1.3	1.3	無	b	B
こども-20	子育て支援事業	1,745	2,133	4,094	4,943	0.3	0.3	無	b	B
こども-21	地域子育て支援拠点事業	30,281	34,210	34,196	34,685	0.5	0.5	無	b	B
こども-22	ファミリー・サポート・センター事業	11,084	11,229	17,348	17,442	0.8	0.8	無	b	B
こども-23	養育支援訪問等事業	779	595	2,345	3,487	0.2	0.2	無	b	B
こども-24	児童手当支給事業	2,266,812	2,308,502	2,282,471	2,359,392	2.0	2.0	無	b	B
こども-25	入院助産等事業	5,426	9,936	6,992	14,856	0.2	0.2	無	b	B
こども-26	ひとり親家庭等生活支援事業	293,060	297,804	306,370	419,841	1.7	1.7	無	b	B
こども-27	小児医療助成事業	472,321	438,864	481,634	546,795	1.2	0.6	無	b	B
こども-28	未熟児養育医療事業	7,096	5,568	9,424	7,275	0.3	0.1	有	b	B
こども-29	ひとり親家庭等医療助成事業	56,615	55,527	60,496	67,788	0.5	0.3	無	b	B
こども-30	子ども会館・子どもの家管理運営事業	447,062	433,428	466,760	448,349	2.4	2.4	無	a	C
こども-31	放課後子ども総合プラン運営事業	94,514	166	128,165	330,074	4.1	4.7	無	a	A
こども-38	あおぞら園管理運営事業	72,763	60,337	196,189	180,145	15.8	15.1	無	a	B

(4) 主な実施内容

【主な実施内容】

【すべての子ども】

子育て支援団体や地域のボランティア等と一緒に、あおぞら自主保育団体の拠点とするため「一日冒険遊び場」の常設化を検討した。子育て家庭に情報提供をするために保育コンシェルジュ、子育てメディアスポットを活用するとともに、一日冒険遊び場、子育て家庭を対象とした昔遊びや母親の健康管理に関する講座・イベントなどの開催に係る費用の一部を助成した。(こども-02)

【未就学児】

つどいの広場等、子育て中の親子に対し身近に集える場を提供し、親子同士が気軽に交流できるようにした。(こども-03)

多様化する子育てニーズに対応するため、子育て支援センターを指定管理により運営し、地域の子育て家庭に対する育児支援を行った。(こども-21)

【幼稚園・保育所に通う子ども】

公立保育所の効率的な運営と維持管理に必要な修繕を適時、適切に実施した。(こども-04)

幼稚園等就園奨励費補助金について、国の制度を超えて市単独補助で第2子の実質無償化を実施し、保護者への経済的支援を行った。私立幼稚園教材教具購入費等及び健康診断費補助金及び鎌倉私立幼稚園協会補助金事務を適切に行い、幼児教育の充実を図った。(こども-05)

子育て支援施策、待機児童対策として、私立幼稚園の預かり保育に対する補助金を交付し、子育て支援の充実を図った。(こども-07)

鎌倉地域及び大船地域で病児保育事業と病後児保育事業を実施し、保護者の負担軽減を行った。(こども-14)

保育士の派遣を活用するとともに、保育スタッフの弾力的配置等により定員を超えた弾力的な運用による受け入れを進め、待機児童の削減に努めた。(こども-16)

【特別な支援を要する子ども】

相談員やファミリーサポートセンターの支援会員のスキルアップを図るため、要保護児童対策地域協議会の関係機関による研修を実施するとともに、外部研修へ参加し、相談体制を充実させた。(こども-19)(こども-22)

障害児支援の拠点施設として、専門性向上を目的とした職員研修プログラムや他事業所からの研修生の受け入れ等を行い、民間事業所との連携や情報共有を行った。(こども-38)

施設管理については、ふるさと寄付金を活用して屋根の防水修繕を行った。(こども-38)

【就学児】

職員の確保など安定した運営を図るため、指定管理者制度を導入するため、指定管理者選定委員会を実施し、運営主体者を決定した。(こども-30)

放課後子ども教室と子どもの家を一体的に運営する「放課後子ども総合プラン」を、平成30年度から開始するために条例等の整備、検討委員会での協議、指定管理者選定委員会開催して運営主体を決定した(こども-31)

【医療費助成】

医療費助成の適正化について継続して取り組みを行い、給付業務の適正化に努めた。(こども-26)(こども-28)

小児及びひとり親家庭等の医療費助成について、県内各市の一部負担金導入に係る検討状況を把握など、市民のニーズや負担のあり方について検討を行った。今後も各市の動向をみながら、引き続き検討を行っていく。(こども-26)(こども-28)

未熟児養育事業については、法定事務のため従前の事務を維持継続した。(こども-27)

医療費助成のあり方の研究を行うとともに、市民の利便性の向上に向けて、相談・申請窓口の一本化を検討し、令和元年度から実施することとした。(こども-26)(こども-27)(こども-28)

【実施できなかった事業とその理由等】

(5) 平成30年度(2018年度)の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	適切	要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	適切	要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	適切	要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	適切	要改善
<p><上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等></p> <p>[すべての子ども] ・児童福祉審議会を1回開催するとともに、鎌倉市子ども・子育て会議及び鎌倉市子ども・子育て会議庁内推進委員会を2回開催し、子育て支援事業計画「鎌倉市子ども・子育てきらきらプラン」の推進に努めるとともに、プランの改定へ向けたニーズ量調査を実施した。(こども-01) ・子育て支援事業において、保育コンシェルジュの配置、一日冒険遊び場等の支援、在宅子育て家庭の支援等を行い、様々な子育て支援サービスの充実を図った。(こども-02)</p> <p>[未就学児] ・地域子育て支援拠点事業については、子育て支援センターの指定管理による事業の効率化と支援体制の充実が図られた。(こども-20)</p> <p>[幼稚園・保育所等に通う子ども] ・就園支援事業では、幼稚園就園奨励費の第2子に係る実質無料化を実施し、多子世帯の経済的負担の軽減を行った。(こども-05) ・保護者の多様なニーズに応えるべく預かり保育を実施している、私立幼稚園の運営費への補助を行うことで、待機児童の解消を図ってきた(こども-07) ・特別保育事業では、鎌倉・大船両地域において、病児・病後児保育事業を開始し、保護者の負担軽減に貢献した。(こども-13)</p> <p>[特別な支援を必要とする子ども] ・障害児支援の拠点施設として、専門性向上を目的とした職員研修プログラムや他事業所からの研修生の受入れを行い、市内民間事業所との連携や情報共有については、障害福祉課と連携して行ってきた。(こども-37) ・市民等との協働事業については、ムーブメントプログラムを元にした活動への助言、同大学生徒のボランティア参加等の取り組みを継続している。(こども-37) ・玄関のオートロック化、防犯カメラ及びモニター設置、各居室建具の修繕等を行い、セキュリティ強化を図った。また、老朽化していた屋外受水槽の取替え修繕も実施した。(こども-37)</p> <p>[就学児] ・子ども会館・子どもの家管理運営事業においては、各小学校区に子どもの家を設置し、支援員のもと学童保育を行うとともに、子どもの家に併設又は単独で設置する子ども会館により、地域の乳幼児・小中学生に遊びの場を提供した。(こども-29) ・放課後子ども総合プランを2校で開始した。(こども-31)</p> <p>[医療費助成] ・平成29年度に引き続き、社会保険診療報酬支払基金に業務委託を行ったことにより受益者の助成の利便性が上がり、業務の効率化を図った。(こども-27)</p>			

(6) 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

【すべての子ども】

・今後も必要に応じて児童福祉審議会を開催し、意見を聴取し適切な事業実施に努める。また、子ども・子育て会議を開催し、子育て支援事業計画の推進に努める。

・既存の施設や公園等を有効活用するため、庁内の関係課と連携を図るとともに、子育て支援団体や地域のボランティア等と一緒に「冒険遊び場」を常設化していく。また、子育て家庭に対し、充実した支援情報の提供を行い、利用者が円滑に利用できるよう取り組む。

【未就学児】

・子育て中の親子に対して身近に集える場所を提供し、親子同士が交流できるようにするためにも、継続してつどいの広場を運営しながら、腰越地域の子育て支援センター設置に向けた検討を行う。

【幼稚園・保育所等に通う子ども】

・幼稚園や保育所に通う児童については、今後も保護者の負担軽減に取り組んでいく。

・病児保育と病後児保育の双方を継続して実施していく。

【特別な支援を必要とする子ども】

・児童発達支援センターあおぞら園で実施する事業については、事業内容の充実や効率的な事業運営の視点を踏まえ、運営の見直しの検討を行う。

【医療費助成】

・医療費助成の適正化について継続して取り組みを行う。また、小児及びひとり親家庭等医療費助成について、市民のニーズや負担のあり方について検討し、子育て家庭への更なる支援の充実を図る。

(7) 令和元年度(2019年度)の目標

【すべての子ども】

「冒険遊び場」の常設化を実施する。子育て家庭に情報提供をするために保育コンシェルジュ、子育てメディアスポットの更なる活用を図るとともに、子育て家庭を対象とした講座・イベントなどの開催の支援を行う。(こども-02)

【未就学児】

子育て中の親子に対して身近に集える場所を提供し、親子同士が交流できるようにするため、継続して腰越地域におけるつどいの広場を運営する。なお、令和元年9月で七里ガ浜子ども会館つどいの広場は終了となるが、腰越行政センターつどいの広場は引き続き実施する。(こども-03)

子育て支援センターについて、未整備となっている腰越地域での設置に向けた検討を行う。多様化する子育てニーズに対応するため、子育て支援情報の把握及び積極的な情報発信を行い、地域全体で子育てを支援していくため、各事業を継続して実施していく。(こども-21)

【幼稚園・保育所等に通う子ども】

公立保育所の修繕を計画的に実施するとともに、突発的な修繕にも適時、適切に対応する。ふるさと寄附金を活用して、由比ガ浜保育園の防音パネルの設置、大船保育園の屋上防水工事を実施する。(こども-04)

国の制度に基づき、幼児教育無償化を実施する。私立幼稚園教材教具購入費等及び健康診断費補助金及び鎌倉私立幼稚園協会補助金事務を事務を適切に行う。(こども-05、12)

幼稚園における、預かり保育事業に対して補助事業を継続して実施する。(こども-07)

鎌倉地域及び大船地域で病児保育事業と病後児保育事業を継続して実施し、保護者の負担軽減に努める。(こども-14)

待機児童対策として、保育士の派遣を活用するとともに、保育スタッフの弾力的配置等により定員を超えた弾力的な運用による受け入れを進める。(こども-16)

【特別な支援を要する子ども】

育児放棄や児童虐待に対する予防、早期発見を目指すため、各種相談事業や家庭訪問など、相談体制を充実させる。(こども-19、こども-22)

障害児支援の拠点施設として、専門性向上を目的とした職員研修プログラムや他事業所からの研修生の受け入れ等を行い、民間事業所との連携や情報共有を行う。また、県内同様施設の多くが運営形態を指定管理に移行している状況を踏まえ、今後に向けた鎌倉市の障害児支援の全体的な方向性の中で、サービスの充実を前提としたあおぞら園の指定管理の導入について、具体的なスケジュールを策定して進めていく。(こども-38)

【就学児】

子どもの家について、安定した運営を行うため公設公営から指定管理へ転換していくとともに、放課後こども総合プランへの移行や民間事業者の活用を進めていく。(こども-30)

放課後こども総合プランについて、7校で実施するとともに、平成32年度に全校実施するための環境整備を進める。(こども-31)

【医療費助成】

医療費助成の適正化について継続して取り組みを行う。(こども-27、29)

小児及びひとり親家庭等医療費助成について、市民のニーズや負担のあり方について検討する。(こども-27、29)

未熟児養育事業については、法定事務のため今後も現状の事務を維持する。(こども-28)

市民の利便性の向上に向けて、相談・申請窓口の一本化を実施する。(こども-27、28、29)

県内各市の一部負担金導入に係る状況を把握した上で、実現可能性の可否を検討する。(こども-27、29)

(8) 目標とすべきまちの姿と令和元年度(2019年度)の目標との関連性

「冒険遊び場」常設して子どもがのびのび育つ環境を整えるとともに、つどいの広場の運営等を実施しながら、腰越地域の子育て支援センター設置に向けた検討を行うとともに、保育コンシェルジュや子育てメディアスポットを活用して子育てに関する情報提供を行い、子育て家庭への支援の充実を図る。

幼稚園における預かり保育への補助事業を継続して実施するなど、幼稚園や保育所での教育・保育内容を充実させる取組を行うとともに、保護者の負担軽減を図ることにより、子どもたちが健やかにのびのびと成長できる環境を整えることができる。

地域との連携を深めるとともに、相談体制を充実し、家庭訪問等を行い、育児放棄や児童虐待を未然に防止することにつながる。

あおぞら園での事業を実施することで、特別な支援を必要とする子どもが健やかにのびのびと成長することができる。また、特別な支援を必要とする子どもを養育する家庭への情報提供や相談対応を行うことで支援の充実が図られる。

子どもの家の指定管理の導入により民間のノウハウを取り入れた運営を行うとともに、放課後子ども総合プランの拡大により、子どもたちの居場所を確保し、子どもたちが健やかにのびのびと成長できるよう支援することができる。

子どもたちが健やかにのびのびと成長できるよう医療を受けやすい環境を整えるために、市民のニーズや負担のあり方について検討し、子育て家庭への更なる支援の充実を図る。また、相談・申請窓口の一本化を実施することで、子育てに関する相談体制の充実が図られる。

3 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	子ども-02	事業名	子育て支援事業						備考	
指標の内容	一日冒険遊び場の開催回数						単位	回	指標の傾向	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	令和元年度途中から常設		
一日冒険遊び場常設化に向けて、具体的な事業実施の手法の検証となるため。	目標値	12.0	12.0	24.0	24.0	24.0	130.0			
	実績値	11.0	12.0	22.0	22.0	22.0				
	達成率	91.7%	100.0%	91.7%	91.7%	91.7%				
整理番号	子ども-03	事業名	地域子育て支援拠点事業						備考	
指標の内容	子育て支援センターの無い地域におけるつどいの広場の開設状況						単位	地域	指標の傾向	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	該当地域は腰越		
各地域においてサービスの平等性を担保するため。	目標値	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0			
	実績値	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0				
	達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%				
整理番号	子ども-04、16	事業名	公立保育所管理運営事業						備考	
指標の内容	待機児童数(各年度4月1日現在)						単位	人	指標の傾向	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	平成30年度より待機児童の算出方法が変わり、潜在的待機児童が待機児童としてカウントされることとなったため、目標値の下方修正を行っている。		
保育を必要とするすべての就学前児童を保育することが求められているため。	目標値	5.0	3.0	1.0	0.0	30.0	15.0			
	実績値	55.0	50.0	44.0	47.0	93.0				
	達成率	9.1%	6.0%	2.3%	0.0%	32.3%				
整理番号	子ども-04、16	事業名	公立保育所管理運営事業						備考	
指標の内容	入所児童数(各年度4月1日現在)						単位	人	指標の傾向	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	待機児童数から算出した目標値に向け、施設整備を進めており、入所児童数の目標は概ね達成しているが、それを上回る新たな保育希望が発生するため、待機児童の目標値達成には至っていない。		
保育を必要とするすべての就学前児童を保育することが求められているため。	目標値	-	2,578.0	2,499.0	2,411.0	2,791.0	2,825.0			
	実績値	2,241.0	2,404.0	2,434.0	2,438.0	2,535.0				
	達成率	-	93.3%	97.4%	101.1%	90.8%				
整理番号	子ども-05	事業名	就園支援事業						備考	
指標の内容	就園奨励費の補助対象となる園児数(幼稚園の類似施設を含む)						単位	人	指標の傾向	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	認定子ども園へ移行した幼稚園の園児数を目標値から控除している。		
幼児教育の推進状況の把握のため	目標値	2,675	2,486	2,486	2,316	2,316	2,204			
	実績値	2,675	2,392	2,335	2,308	2,130				
	達成率	100.0%	96.2%	93.9%	99.7%	92.0%				

整理番号	こども-14	事業名	特別保育事業						
指標の内容	利用者支援事業の推進(保育士資格を有する保育コンシェルジュ設置)					単位	箇所	指標の傾向	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)		
保育を必要とするすべての就学前児童を保育することが求められているため。	目標値	-	-	1.0	1.0	1.0	1.0		
	実績値	-	-	1.0	1.0	1.0			
	達成率	-	-	100.0%	100.0%	100.0%			
整理番号	こども-21	事業名	地域子育て支援拠点事業						
指標の内容	子育て支援センター利用者数(利用者(親子)の総人数)					単位	人	指標の傾向	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)		
児童虐待相談体制の充実を図るため	目標値	32,000	32,000	32,000	32,000	32,000	32,000		
	実績値	22,287	30,946	36,792	35,006	39,711			
	達成率	69.6%	96.7%	115.0%	109.4%	124.1%			
整理番号	こども-19	事業名	児童福祉運営事業						
指標の内容	こどもと家庭の相談室の相談件数					単位	件	指標の傾向	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)		
児童虐待相談体制の充実を図るため	目標値	400.0	400.0	400.0	400.0	400.0	400.0		
	実績値	380.0	434.0	386.0	461.0	496.0			
	達成率	95.0%	108.5%	96.5%	115.3%	124.0%			
整理番号	こども-30	事業名	子ども会館・子どもの家管理運営事業						
指標の内容	子どもの家職員数					単位	人	指標の傾向	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)		
子ども・子育て支援制度で学童保育に従事する職員の配置人数が義務付けられたことを受け、子どもの家の施設整備に併せ、子どもの家の職員を確保する必要があるため。	目標値	121.0	148.0	162.0	175.0	189.0	191.0	28以降人材派遣活用:()内数 H29以降は指定管理施設を含む	
	実績値	121.0	151.0	178(27)	178(13)	174(12)			
	達成率	100.0%	102.0%	109.9%	101.7%	92.1%			
整理番号	こども-31	事業名	放課後子ども総合プラン運営事業						
指標の内容	放課後かまくらっ子実施数					単位	箇所	指標の傾向	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)		
平成32年度中に全校実施するための指標となるため	目標値	-	-	-	-	2.0	9.0	令和2年度末までに全16小学校区で実施予定	
	実績値	-	-	-	-	2.0			
	達成率	-	-	-	-	100.0%			
整理番号	こども-38	事業名	あおぞら園管理運営事業						
指標の内容	延べ利用件数					単位	人	指標の傾向	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)		
児童発達支援センターあおぞら園の利用ニーズを把握する指標	目標値	6,270.0	6,210.0	6,153.0	5,661.0	5,108.0	5,424.0	・開園日数 H30年度229日 H29年度226日 H28年度224日 H27年度223日 H26年度230日	
	実績値	6,272.0	5,680.0	4,785.0	3,695.0	4,365.0			
	達成率	100.0%	91.5%	77.8%	65.3%	85.5%			

参考 前年度外部評価結果への対応

鎌倉市民評価委員会からの指摘	指摘への対応、コメント等
課題	
・多様化する保育ニーズに応えていることは評価できるが、複雑多岐にわたる活動であり、内容が十分理解しにくい面がある。	多岐多様にわたる事業のため、数値ではわかりにくい部分がありますが、毎年実施している、「きらきら白書」により、子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方を公表しています。
・待機児童数が増大している。	・入所希望者が増加しており、国などの補助制度を活用し、施設整備を支援することにより、受け入れ態勢を強化して、待機児童対策を進めています。

提言

・子育て事業は、縦割り行政では解決できない、人を育てることなので、トータルとして事業展開を望む。

・「子ども子育てきらきらプラン」が策定されて期間が経つと思うが、それらが「目標とすべきまちの姿」へ向けてどのような効果が出ている、もしくは改善がされているのか知りたい。評価シートからはよく分からない。効果(結果?)を記載してほしい。

・「目標とすべきまちの姿」にある「次代を担う子どもたちが健やかにのびのびと成長できるよう、子育て家庭への支援の充実が図られており、」について、「充実した支援」とは具体的にどのようなものであるかを明確にし、それに伴う事業について記載していただきたい。

・「目標とすべきまちの姿」にある「支援ネットワークを通じて、支援サービスに係る情報提供が積極的に行われています。」について、「支援ネットワーク」とは具体的にどのようなものがあり、どのような情報をどのように(積極的に)して提供しているのか?を明確にし、それに伴う事業について記載していただきたい。

・「目標とすべきまちの姿」にある地域や関連機関との連携など、子育てに関する相談体制の充実が図られ、育児放棄や児童虐待は少なくなっています。について、どのような「連携」「相談体制」があり、それが「充実している」と判断出来る具体的な内容を示す必要がある。また「育児放棄」「児童虐待」率を「指標」とすべき。

・「指標」の「入所児童数」について、「待機児童数」の備考欄に希望者数を入れておけば済むので、1つにまとめるべき。

・「指標」の「償還払いの件数」について、設定理由を「事務の合理化と共にレセプトの適正な請求をすることに連携するため。」としているが、領収書があるとなぜ適正な請求につながるのか?また実績値は減った方が良いのか?その理由はなにか?

質問

・「指標」の「一日冒険遊び場の開催回数」について、設定理由を「一日冒険遊び場常設化に向けて、具体的な事業実施の手法の検証となるため。」としているが、「一日冒険遊び場」開催回数から、どの様にして「手法を検証」しているのか?また、この「指標」によってこの施策の「目標とすべきまちの姿」の何が確認できるのか?

・「指標」の「子育て支援センターの無い地域におけるつどいの広場の開設状況」について、設定理由を「各地域においてサービスの平等性を担保するため。」としているが、この「指標」によってどうやって「平等性」が「担保」できるのか?「つどいの広場」を開催するとどのような理由で「目標とすべきまちの姿」の何が確認できるのか?

・「指標」の「就園奨励費の市単独助成部分」について、100%ではない場合はありえるのか?

提言に対するコメント等

・令和元年度内に子どもに対して総合的に支援する条例を整備し、行政のみならず、教育機関、市民、事業者とともに子どもを総合的に支援する骨格を作っていきます。

・令和2年度に改定する、次期プランの策定に当たってのニーズ調査を平成30年度に実施しました。この調査を基に、プランの進捗を精査して、さらに子育て家庭への支援の充実、虐待や育児放棄がなくなるよう、次期プランに生かしていきます。

・「待機児童対策や、保護者保負軽減、相談業務の充実など多岐にわたっています。この事業全体を充実させることが、「充実した支援」と考えています。

・「要保護児童対策地域協議会の枠組みのもとで、庁内外の関係機関(学校、保育園、幼稚園、医療機関、警察等)と情報共有を図りながら、具体的な支援の検討を行っています。

・「こどもと家庭の相談室」では、こどもと家庭全般についての相談を受け付けており、また児童虐待相談については、要保護児童対策地域協議会の枠組みのもとで、庁内外の関係機関(学校、保育園、幼稚園、医療機関、警察等)と情報共有を図りながら、具体的な支援の検討を行っています。現在指標として設定している相談件数については、「相談体制」の「充実」の一つの目安となると考えていますが、今後、「連携」面の「充実」についても、他機関との連携がわかるような指標の設定を検討していきます。

・「実態としての「待機児童数」を示したうえで、「入所児童数」を示して受け皿の状況を表示し、それぞれ別の指標としています。

・医療費助成は、窓口で医療証を提示することにより、自己負担分の免除を受けられるものですが、県外の医療機関を受診した場合などは、一旦、窓口で自己負担分を支払い、後日、市から償還払いを受けることとなります。償還払い1件あたりの領収証の枚数は様々ですが、一般的に償還払いの件数が少なくなれば、領収証の枚数が少なくなり、それに伴う事務手続きも軽減することと考えられますので、実績値は減った方が良いと考えられます。しかしながら、過年度分の償還払いをまとめて申請する場合などもあり、年度毎の比較について難しい面があることから、平成31年度より、同指標の掲載を取りやめました。今後は、より有効的な指標の設定について検討していきます。

質問に対する回答

・「冒険遊び場」は、子どもたちの遊びの可能性を広げ、子どもたちが自由に遊べる空間として実施してきました。継続してコンスタントに実施してきた結果に基づき、子どもたちが健やかにのびのびと常設化が必要と考えています。

・子育て支援センターを各地域に設置して、子育て支援の拠点とすることを目標としていますが、腰越地域には子育て支援センターを設ける環境が整っていないため、代替施設として「つどいの広場」を開設しています。

・指標を見直し、削除しました。

・「指標」の「利用者支援事業の推進」について、なぜ目標値は常に1ヶ所なのか？

・「指標」の「子育て支援センター利用者数」について、目標値はどのように算出しているのか？

・「指標」の「子どもと家庭の相談室の相談件数」について、実績値は増えた方が良いのか？また、この指標によって「目標とすべきまちの姿」の何がわかるのか？

・「指標」の「子どもの家職員数」について、義務付けられているのになぜ満たしていないのか？法令違反ではないのか？

・「指標」の「延べ利用件数」について、設定の理由を「利用者のニーズを把握するため。」としているが、利用者のニーズなのか利用ニーズなのか？利用者数では利用ニーズは把握できないのでは？また開園日数にそれほど増減は無いのに数値が変動しているのは何故か？

子育て中の親子の居場所・相談場所である子育て支援センターを、腰越地域の開設するまでの暫定的事業であるため、腰越地域1地域のみの実施目標となります。

目標値については、目標設定当時の子育て支援センターの利用者数を勘案し、設定したのですが、その後、センターの新設や、移転に伴い設備の充実がなされたセンターもあることから、今後、より具体的な目標設定についても検討していきたいと思います。

「子どもと家庭の相談室」は文字通り、子どもと家庭全般についての相談を受ける場です。相談件数が伸びることは、その認知度の高まりの表れと捉えており、同時に、「目標とすべきまちの姿」にある、「子育てに関する相談体制の充実」の一つの目安となるとも考えています。

指標の人数は13日/月を1人として設定しています。しかしながら、実態としては、10日/月、13日/月、15日/月勤務があり、日々の子どもの家に配置している職員数は法令以上の人数を配置しています。

利用ニーズ、すなわちあおぞら園の利用希望のニーズの意となります。

・開園日数は年度ごとに大きく変動しませんが、平成24年の法改正以降、市内に民間事業所が設立され障害児支援の選択肢が増えたため、年度による利用人数の増減があり、数値に影響しています。

すべての子育て家庭への支援

評価できるところ

- ・保育コンシェルジュ、子育てメディアスポットの更なる活用を図るとともに、子育て家庭を対象とした講座・イベントなどの開催の支援を行った。
- ・「一日冒険遊び場」の常設化について検討する。子育て家庭に情報提供をするために保育コンシェルジュ、子育てメディアスポットの更なる活用を図るとともに、子育て家庭を対象とした講座・イベントなどの開催の支援を行った。
- ・国の制度を超え市単独補助で第2子実質無償化を実施した。就園奨励費の第2子の補助を市単独費で増額し、実質無償化を図ることなどは具体的な政策としてよい。効果も期待される。
- ・子どもの家の指定管理の導入により民間のノウハウを取り入れた運営を行うとともに、放課後子ども総合プランの拡大により、子どもたちの居場所を確保をめざしている。
- ・多様なサービスを推進している点においては評価できる。
- ・子どもの年代や多様なニーズにあった取組を実施しているところ。

評価の内訳				委員会の評価
取組	5	0	3	
効果	1	0	-	-

課題

- ・多様化する保育ニーズに応えていることは評価できるが、複雑多岐にわたる活動であり、内容が十分理解しにくい面がある。
- ・市内子育て支援センターの運営および内容につきPDCAの観点からその効果を検証する必要がある。
- ・児童福祉審議会は、審議事項がなく開催しなかったとはどのような意味で、それによって何が問題となるかなどが分からない。
- ・「一日冒険遊び場の常設化を目指す」は、昨年も記述があったが、その後どのような効果をあげているか不明。
- ・市民サービスは進んでいるが、育児放棄、児童虐待は増えている。子どもが健やかに育つ環境とは何か考えること。
- ・待機児童数の解消が難しい。

提言

- ・市内に4ヵ所ある子育て支援センターの運営について内容につきPDCAの観点からその効果を検証する必要がある。
- ・育児放棄や児童虐待に対する予防、早期発見を目指すため、各種相談事業や家庭訪問など、相談体制を充実していく必要がある。
- ・市独自のサービスと国からのものをわけて明記してほしい。いろいろなことを言っているが対処療法的にならないよう、子どもの将来を見据えて事業の取組を望む。
- ・実施内容に「一日冒険遊び場の常設化を検討」とあり、次年度目標に「常設化実施」とある。また指標の目標が24.0 130.0と大幅修正している。当年度の成果(検討内容)を報告すべきである。
- ・指標「相談室相談件数」が増加傾向にあるが、内容に特徴的な現象は無いのか？コメントで「認知度の高まりの表れ」と自賛しているが、設置目的は相談回数の増加ではない。内容を分析のうえ対応が望まれる。
- ・待機児童数は推移は変わらず厳しいものがあると感じる。開設等は進めている様だが、来年度の待機児童対策のコアとなる施策は何か目標と共に記して欲しい。
- ・待機児童数は潜在的待機児童もカウントされたという事で 実際のニーズを知ることができる。でもそれに合わせて目標値を下方修正するのはどうか。待機児童0を目指して頑張してほしい。
- ・多様な支援が実施されている様子が窺えるが、長期的・構造的視野に立った時「鎌倉市子育て」が抱える課題に対応した手立てなのか？対症療法的な手立てのみならず根源的な課題に対応しているのかを常に念頭に置きたい。
- ・市独自の取り組みなのか、国からの要求による事業なのか？法律的なものなのか？を分かるように表現してほしい。
- ・様々な事業を実施しているが、体系的に整理されていないため、関連性がわからない。目標とすべきまちの姿と、実施事項、結果の活用などを整理して表現(説明)していただければ、もう少し評価(市民満足度)が上がるのでは？

質問

- ・育児放棄や児童虐待に対する予防、早期発見を目指すため、各種相談事業や家庭訪問など、相談体制を充実させるとあるが実態はどのようなものか。
- ・かまくら子育てメディアスポットにて充実した子育て支援情報の提供の具体的内容は？
- ・指標で「潜在的待機児童数をカウントするよう変更」とあるが、どのような方法でカウントするのか？
- ・冒険あそび場の常設となると今まで市内各地で開催されていたものがなくなるということで 他の地域の子どもたちにどうフォローするのか。